

令和2年度学校評価及び令和3年度重点課題

1. めざす学校像

【教育方針】 個々の能力を十分に伸長させると共に、品性の高い教養のある人間を育成する。

思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。

【教育目標】 豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために、恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。

基本的な生活習慣を身につけさせるための躾については十分留意、厳しく指導し、あくまでも清楚にして質実健全な校風の高揚につとめる。

2. 中期的目標

1. はじめに

普通科総合選択制・進路別指導により、本人の能力を十分に発揮できる教育を目指す。

多様で個性のある子どもを受け入れることができる学校として、その存在感を教職員全体で示していく。

総合選択制の優位性を個々の指導に反映させると共に教員の意識改革を進める。

2. 普通科総合選択制の更なる充実

- 1) 満足度調査(生徒向けアンケート)の実施
- 2) 基礎学力の底上げと選択科目の充実
- 3) 共通履修科目・TT授業の拡充
- 4) 個々のニーズと学力向上
- 5) 総合的な探究指導
- 6) 進路別指導、小論文指導、検定学習(漢検)、エリア学習(公開)
- 7) ICTを導入した授業展開(すらら学習)の充実
- 8) 指導要領改訂に向けて

3. 生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- 1) 遅刻指導の徹底
- 2) 定期的な頭髪服装検査の実施
- 3) 登下校中のマナーの向上
- 4) 講習会の実施(薬物乱用防止講習、自転車講習、携帯スマホ講習など)

4. 生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

- 1) 体育祭、文化祭等の学校行事の充実
- 2) 部活動の活性化
- 3) 生徒会活動の充実

5. いじめ問題

- 1) いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

【普通科総合選択制アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

普通科総合選択制アンケートの結果と分析 (令和3年1月実施分)	学校評価委員会からの意見
○「選択の基準」に見られる「満足度」 ここでは、「①進路」を基準として選択した者について「満足度」が高い傾向がみられた。また、例年と違う所は「⑧先生の勧め」の満足度が10ほど上昇していることからエリアや担任の先生が良く生徒と相談して決めていくことがうかがえる。	*高等学校の質の向上に向けて、継続的に取り組んでいることは大いに評価できます。また、箕面学園の教育理念をもち、教育目標を実現し、教職員が一丸となって目標、課題に沿って一生懸命努力し、取り組んでいる姿勢に対して評価できます。
○「進路を決めた時期」に見られる「満足度」 例年通り1年次に進路が決まっている者はやはり満足度は高い傾向にある。「⑦まだ」を選んでいる生徒は、極端に満足度を下げていることから、自分の進路が明確に決められていない生徒は、当然満足した選択が出来ていない。したがって、自分の進路を早い段階で決め、自分の進路に即した選択をすれば、授業への「満足度」も上がると考えられる。	*進路の方向性を早い段階で決定したものに関しては満足度も高い傾向があり、評価に値する。 ただ、進路が定まらず満足した選択が出来ていない生徒に関しては、早い段階で手を差し伸べる必要がある。担任だけではなく学年全体で一人一人と向き合う必要がある。
○「進路とエリアの合致」に見られる「満足度」 ○全体を通して 自分の進路について、主体的に取り組めている生徒の満足度が高くなっている。一方、自分の進路とエリアの結びつきで考えられない生徒が、授業選択で十分な満足を得られないことは例年通りなので、問6の考察でもあるように1年次に進路決定の手段、例えば進路個人面談の時間の設定などが必要かもしれない。実際入学したばかりの生徒に進路の話をしてもピンとこないかもしれないが目標を見つければ選択授業がより生きてくる可能性が高いと考えられる。 進路目標を早い段階で意識付けし、前向きに取り組めるように個々に応じた指導が、今後も必要になってくる。選択授業やエリア別学習が、有効な学びとなるように、生徒と教員が努めていかなければならないと思われる。	*教職員の“普通科総合選択制”的理解をより深めること、生徒の進路決定に効果的な指導を特に“1年次”に行なうことが最重要と考えます。しかし、入学したばかりの生徒に進路を意識したエリア選択は困難だと思われますが、個別面談等で個別に目標を設定してあげることも重要だと考えます。 早い段階で進路に対しての意識づけを行い、前向きに取り組む中で、生徒自身に気づきが生まれるのではないかでしょうか。

遅刻数、頭髪指導者集計・学校行事アンケートからの結果と分析	学校評価委員会からの意見
遅刻指導・身だしなみ等、各学年・生徒指導部中心に検査を実施してきた。 数年前と比べると頭髪検査で指導も受ける割合は少なくなっている。ポイント指導という本校独自のものも取り入れ一定の結果も出てきた。 学校行事の生徒満足度も、十分なものだと考えられる。今年度の体育祭は新型コロナ感染症が流行する中、感染防止対策を取り入れた協議の実施を模索してきたが、当日の雨天により中止となった。協議開催向けた取組は令和3年度に生かしたい。 クラブ活動活性化については、強化クラブも増え、柔道部が近畿大会へ出場するなど今年も公式戦で上位進出を果たすクラブが出て来た。一芸一能制度を利用して入学する生徒も増え、アスリートクラブを中心に頑張っている。今後に期待したい。 [分析] 1日平均で比較すると、遅刻数は少し増えてしまった。コロナ禍の状況の中で欠席数の1日平均は減少している。学習したいという意識が芽生えた結果、遅刻しても登校しようという意識が働いたところもあったと考える。来年度も欠席、遅刻が減少するように働きかけは引き続き行なわなければならない。 生徒一人ひとりがより良い生活習慣を確立できるよう、ポイント指導等いろいろな本校独自の制度、対策に引き続き取り組むことが必要と考える。 学校行事は、参加して満足する生徒が年々増えてきている。マンネリ化を防ぐため、プログラムの見直し等を常に行っており、結果であると考える。感染防止対策については来年度もより慎重に考慮し、かつ生徒たちが自主的に楽しんで参加できる行事を企画していく。	*数年前と比べると、遅刻数や頭髪検査、特別指導を受ける生徒が大幅に減少し、学校の質の向上、教職員の指導の成果と評価できます。 特に頭髪に関しては、時代に合わせ、髪色や髪型の規則の見直しが必要ではないか。時代に合わせた指導、また一人ひとりの生徒に合わせた指導を求めるのと同時に、柔軟さも持ち合わせた指導を期待する。 *学校行事に関して、雨天中止の行事もあったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から例年通りの実施が困難な中で、プログラム内容変更等柔軟な対応、又、教職員一丸となって感染予防対策を万全に実施でき、安全に尚且つ、生徒の生き生きとした楽しむ姿が見れた。それに尽きます。 *クラブ活動について、年々クラブ加入率が上がっており、平成28年度は46%の加入率であったところから、5年間で14%も上昇しており、ここ3年は毎年右肩上がりで大いに評価できます。アスリートクラブだけではなく、文化部・同好会も含め、学校全体で活性化されてきているのではないかでしょうか。 目標は高く、次年度よりクラブ加入率の目標数値を上げてみてはいかがでしょうか。

目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
I ・ 総 合 選 択 制 の 更 なる 充 実	生徒の学力向上に向けて	<p>昨年度に引き続きAIによる個別学習システム「すらら」を英、数、国の一科選択科目で使用し学力の向上をはかる。</p> <p>本年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すらら」利用選択科目での学習 ・「すらら」希望者の学習 *朝(月水金)と放課後(火木金) 実施 *柔道部は部単位で学習した。 ・オープンキャンパスでの利用 *「すらら」体験コーナーの設置 *体験IDの配布 ・(就学・学習)支援生徒の学習保障・補完として 	<p>「すらら」の利用により、基礎学力の向上が見られるが、ICT化とも連動し生徒全員が「すらら」に向き合えるようを目指す。</p>	<p>2 取り組みの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すらら」利用選択科目での学習 ICT導入のコンテンツとして、一定の役割を担うことができた。アンケートをみても、各教科それぞれの選択科目に合わせた利用を模索してくれているように感じる。また、昨年度問題点としてあげられたICT環境の整備のうちタブレット使用に関するトラブルはアンケート結果に出てこなかった。「すらら」がflashを切り替えたことなどが原因としてあげられるが、前年度のトラブルの経験則が役立っているようにも思う。しかし、通信環境については引き続き問題点として多く挙げられた。今後企画情報室・生徒PC準備室会議へ通信環境の整備をお願いしたい。また、生徒の利用についての問題点としては、「解説を聞かない(聞いても理解できない)」ことや入力スピードの問題(ログインに時間がかかるなど)が挙げられている。昨年度も同じような問題点が挙げられているため、今後の検討課題としたい。ただし、新カリキュラムに向けて、生徒の個別学習にどう関わるべきかということを考えていかなければならない。「すらら」についても同様に、「解説を聞かない(聞いても理解できない)」生徒にどこまで教員が個別に関わるべきか、どこまで生徒にさせるべきかということを考える必要がある。最後に、今年度途中から学習管理画面の変更や一部機能の廃止や追加があった。新しい機能などについては、すらら主導として各先生方へ充分な情報提供ができなかったと感じている。2022年度新入生のタブレット導入・すらら利用までに先生方への研修などの機会を設けたい。 ・「すらら」利用(希望者)の学習 <p>定期考査に向けての学習課題や校内模試に向けての学習課題を配信した。利用状況は生徒によってまちまちで、ほとんどログインしない生徒もいた。そのような生徒に十分な指導が行き届かなかったことが反省点としてあげられる。また、前年度の反省点としてあげられた個々の生徒を指導するシステムの確立や各教科との連携なども充分におこなうことができなかった。2022年度に向けて体制づくりを急ぎたい。なお、希望者の中には前年度オープンキャンパスに参加した生徒・保護者の利用が複数名いた。「すらら」が生徒・保護者のニーズに応えられるものだという認識の中で取り組みを進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスでの利用 おおむね好評であった。 ・就学支援での利用 一部利用はあったが、充分な活用はできなかつた。 <p>3 来年度に向けて</p> <p>2022年度に向けて、あと1年となる中で、ICT導入の中に「すらら」をどのように位置づけるのかということを提案できればと考えている。そのためには、来年度も様々なケースでの「すらら」利用を積極的におこない、活用する</p>

			<p>教員のスキルなどの向上に努めたい。各教科には、「すらら」利用を前提とした「どう利用するか」という議論を活発におこなってほしい。これは新カリで求められる「教材をどう教えるか」という視点から「学校や教科が求める資質・能力の向上にどのように教材を利用するか」という視点への変換をもとに検討してほしい。運用PTでは、「すらら」を利用することで向上させるべき基礎学力について、少しずつではあるが議論されている。単に国・数・英それぞれの基礎学力の向上を目指すのではなく、他教科も含めてどのような資質・能力の向上が求められるかということを広く議論したい（例えば、化学基礎で利用する計算能力や英語で事前に修得すべき国語の文法など）。同時に「すらら」を含めたICT運用についての体制づくりも具体化していかなければならない。運用PT・学年・担任が利用しやすいように、また生徒を指導しやすいようにするためにには、どのようなことが必要か検討して具体的に提案していきたい。</p>
選択科目の充実	<p>生徒へ普通科総合選択制についてのアンケートを実施し、教員の授業改善などの参考資料とする。</p>	<p>アンケートで普通科総合選択制の理解度や、生徒各々が希望する進路に応じた授業選択または教員が生徒の能力に沿った授業を行えているか満足度で評価し、全ての項目で60ポイント以上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全 体 の 満 足 度 平 均 69.2(70.7) ・専 科 の 满 足 度 平 均 68.1(69.2) ・基礎教養の満足度平均 70.0(71.8) ・2年次の選択授業満足度平均 68.5(69.3) ・3年次の選択授業満足度平均 69.7(71.8) <p>全ての項目で目標値の60ポイントは上回っているが、昨年度より全体的に若干ポイントが下がっている。選択枠毎の開講講座の精選やシラバスの改善は毎年行っており、更なる努力が求められる。</p>
エリア学習の実施 ①アドバンス ・大学・専門学校進学へ向けて進路意識の向上をめざす。 ・大学・専門学校受験に必要な学力養成をめざす。 ・大学・専門学校進学後も通用する学力養成をめざす。 ②キンダーアンドウェルフェア 保育・福祉に関する仕事をへの興味関心をより深める。 ③アスリート ・競技スポーツに必要な知識や理論を総合的に学び、アスリートとしてのスキルアップを図る。そして、スポーツを通じて心身を鍛えると	<p>隔週土曜日、「アスリート」「アドバンス」「キャリアアップ」「キンダーウェルフェア」に分かれ、それぞれのエリアに特化した授業を実施</p> <p>①アドバンス 生徒の希望進路にあった進学・受験講座を複数開講した。 7限目講座の開講</p> <p>②キンダーアンドウェルフェア ②-1 キンダー領域 *幼児教育での音楽・リズム表現や造形表現での技術の習得、向上を目指す。 *保育実習などを通じて子どもとの「ふれあい』を体験する。 *進路へのイメージをより具体的にする。</p> <p>②-2 ウェルフェア領域 *基礎的な知識学び、社会性・協調性の向上を目指す。 *福祉に対する関心を深くしていくことをを目指す。 *進学・就職についてのイメージをより具体化する。</p>	<p>アンケートでエリア選択が進路と一致しているか満足度により評価。満足度 80%以上を目指す。</p> <p>エリア学習については各エリアの活動方針に沿って総括する。</p>	<p>○エリア別満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア ド バ ン ス 65.0(64.4) ・キ ン ダ -ウ エ ル フ ェ ア 72.1(81.0) ・ア ス リ ト 74.3(81.6) ・キャ リ ア ア ッ プ 67.0(64.1) <p>○進路とエリアの一一致</p> <p>それぞれのエリアで「ちょうど合っていた」「それなりに合っていた」と回答している者の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア ド バ ン ス 67.4(60.0) ・キ ン ダ -ウ エ ル フ ェ ア 90.0(77.8) ・ア ス リ ト 78.7(81.5) ・キャ リ ア ア ッ プ 73.8(62.9) <p>例年の考察とほぼ同じ結果だが、今年度は「全然あっていなかった」という選択をするものがほとんどなく、B表でみるとアスリートやキンダーの割合は例年通り高かったがアドバンスやキャリアアップの「合っていた」という回答が増加しているのはそれぞれのエリアでの取り組みや工夫、努力されていることがうかがえる。</p> <p>今年は初めて google のフォームを利用してアンケートをとったという事もあり、「わからない」という回答をしている生徒が例年より多いがエリアに関しては進路の決定の早期化の手段</p>

<p>ともに、自己実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。</p> <p>④キャリアアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な人間づくりを目指す。 ・中学校評価(面倒見いい学校)をより高める。 	<p>③アスリート</p> <p>基本的には各クラブにおいて活動した。また、共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。</p> <p>④キャリアアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12~15名の少人数構成の班 <p>【取り組み方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で生きていく力の育成 ・進路に向けての意識の向上 ・キャリア教育(おもに就職領域)の充実 <p>【学びのテーマ】</p> <p>①「社会を知る」力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業観・仕事観の養成 ・社会人としての常識やマナー ・時事問題 ・メディアリテラシー <p>⇒班別講座で対応</p> <p>②「自分を知る」力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性や適性を考える ・自己PRの作成 <p>⇒班別講座で対応</p> <p>③自己表現力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作文 ・コミュニケーション能力 ・字を丁寧に書く <p>④生活力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネープランなど「お金」纏わる学習 ・消費者教育 ・自分で生活するための「衣食住」に関わる学習 <p>⑤基礎学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校や中学校の学び直し ・高校での授業の復習や考查対策 ・漢字検定などの資格取得 ・PCIに関する基礎的な技能 <p>①土曜日エリア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1教員につき15名程度の生徒で班を構成する。※1~3年混在 <p>⇒班によるLHR(毎回学習テーマを設定)</p> <p>⇒班別講座(担当教員1名に着き1講座)</p> <p>※【学びのテーマ】①~④又は⑤で設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他業者による講習会や講演会などを企画する。 ・班による朝礼・終礼をおこなうことで出席状況を把握する。 <p>⇒欠席生徒などについては班担当教員による指導をおこなう。</p> <p>②エリア学習の公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班別講座を中心に公開をおこなう。 <p>⇒2種類の班別講座を公開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校への出前授業についてエリアとしての参加を企画する。 <p>⇒今年度1回実施することができた。</p> <p>③記録簿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習記録をファイリングし、班担当教員で管理する。 <p>④サマーキャンプ・サマーセミナーの実施</p>	<p>をもう少し検討していく必要がある。</p> <p>①アドバンス</p> <p>1年・2年とも来ている生徒に関しては真面目に取り組んでいる。授業の発展問題を行っているため、真剣に取り組んでいる様子が見られた。ただ、2年生に関しては欠席が続いている生徒や授業中に寝ている生徒も何名かみられるため、今後担任とも連携しながら継続した声かけや進路意識を持たせる必要がある。モチベーションクラスは10月までのエリア学習で全員が進路に対して目的を持ったため、解散した。</p> <p>3年の入試前に関してはアスリートエリアの生徒も受け入れ、志望理由書の添削などを行つた。</p> <p>7限授業について、今年度は特進・公募向けの授業と一般向けの授業の2展開で行った。(特進・公募向けの授業)…大学受験で必要な科目を受講する。</p> <p>(一般向けの授業)…授業の復習等授業でより高い点数をとるために受講する。</p> <p>進路概観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの受験種別でもそうだが、英語を使用しての受験はハードルが高い。英語の学力不足が否めない。7限目のみで補習を行ってもなかなか実力が伴わない。 ・総合型選抜、公募制推薦では合格することもあるが、看護系の学校ではなかなか合格が出ない。実力も含め、どれくらいその職業について知っているかも合否のポイントである。 ・総合型選抜ではプレゼンテーションを受験科目としている所が複数有る。プレゼンテーションの対策も必要である。 ・受験校を早めから決めていると対策をする時間があるが、急遽受験するには履修科目が足りていない場合も多い。 <p>②キンダー・アンド・ウェルフェア</p> <p>【キンダー】</p> <p>今年度は新型コロナウィルスの影響で、保育実習の中止やソーシャルディスタンス確保のために、学年ごとに活動するなど例年と違う形での活動が多くなった。一方で、新たに造形技術表現(美術中心)や音楽・リズム表現といった選択授業ではできない分野に取り組むことができたので、来年度以降も継続したい。調理実習や学年を超えた関わりを持つことができなかつたが、生徒からの希望もあるので来年度は対策を考えて実践していきたい。今後はエリア学習や選択授業での活動に加え、7限目幼児教育音楽講座、造形技術表現や音楽・リズム表現の充実をはかり、引き続き技術の向上と共に、幼児教育への意識の向上を目指していきたい。来年度の保育実習の有無は未定のため、内容は変更されることもある。</p> <p>【ウェルフェア】</p> <p>今年度は新型コロナウィルスの影響で、例年実施しているビジネスインターンシップができなかつたが、保育専門学校での講義や体験型の授業を中心に行つた。進路への意識付けて関西保育福祉専門学校への学校見学</p>
---	--	---

	<p>・ サマーセミナーのみ実施。ICT教育など実践したい。</p> <p>⇒「すらら」の活用やPCを活用した授業を開いた。また、サマーキャンプができなかったことから、希望者を募って特別講座として食材の購入から全てをおこなう調理実習を実施した。</p>		<p>や、キャリアアップの進路講習会への参加を行った。今年度よりエリア学習に、箕面学園福祉保育専門学校の横山先生（福祉担当）に入ってくれたので、これまでわからなかつたウェルフェアの活動内容や今後の課題も検討する良い機会となった。今後はより専門学校と連携しエリア学習や選択授業充実させていきたい。そして、福祉に対して興味を持ってもらえるよう目指していく。</p> <p>③アスリート</p> <p>今年度についても、エリア学習によって活動時間が確保でき、練習試合など（学外を含む）も組みやすくなったことで、実践を多く積むことができ、生徒のアスリートとしてのスキルアップ、戦績につながったと感じている。また、生徒自身もアスリートエリアに所属していることで自覚も出てきている。部活動だけでなく、授業をはじめとした学校生活にも向上心をもって取り組む生徒も増えてきているように感じる。一方で新型コロナウイルス感染拡大の影響で、活動が制限されてしまい、本来行う予定であった社会人による講習などが実施できなかったクラブもある。</p> <p>④キャリアアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍による変則日程の中で、就職希望の3年生は、本来夏休みなどにおこなっていた取り組みができる限りエリア学習に取り込んで、別枠で活動した。就職希望の3年生の負担（7限でのガイダンスなど）を軽減することができたと考える。 ・ 未来スクールステーションの導入により、以前より課題であった講習会の場所の問題を解消することができた。今後も積極的に活用していきたい。 ・ 少人数の班編制（15名以下）については、今後も維持したい。生徒一人一人を丁寧にみることができている。 ・ バラエティ豊かな班別講座や講習会を用意することで様々な生徒の興味関心を引き出すことができている。今後もさらに多角的な活動を模索したい。 <p>○エリア学習の公開</p> <p>エリア学習の見学者（中学生、保護者、教員の合計）132名（95名）</p> <p>132名中 17名が本校を受験した。</p> <p>コロナ禍ではあったが、検温、手指消毒など感染防止対策を取り、公開を実施した。普段の学校の様子を見ることができたと好評だった。</p>
学習習慣の形成	毎朝ホームルーム 10 分間で朝学習の課題に取り組んだ。10 月末の読書週間では朝読書に取り組んだ。	朝学習に取り組むことで授業にスムーズに入れるなどの学習習慣を形成する。	数値化することは困難ではあるが、年々遅刻者も減少しているように少しづつではあるが習慣づけができている。
進路別指導の充実	<p>・ 7限目授業</p> <p>おののの進路に応じた授業（幼教音楽講座、小論文講座、アドバンスエリア進学講習等）の実施</p> <p>基本的に少人数指導で実施</p>	<p>基本的に希望者への個別指導で学力の向上をはかる。</p> <p>小論文講座については新型コロナ感染予防対策の観点からクラスを分割して実施した。</p>	生徒、教員ともに継続への期待が高い。一層の充実を図る。

小論文指導	<p>文章作成能力の向上に向けて小論文指導を総合学習の中で行った。学年ごとに生徒を十数名の少人数班に分け、それぞれ決まった担当教員を付けて指導した。</p> <p>「学研教育みらい」の次の教材を用いた。</p> <p>1年 文章の書き方講座（計9回） 2年 キャリアデザイン講座（計7回） 3年 志望理由書講座（計2回） 適宜放課後の補習も行った。</p>	<p>それぞれの教材に対応した小論文テストを生徒に受験させた。</p>	<p>1年生 1年生は自分自身の経験や意見など具体例を用いての小論文作成が必要だが、具体例自体は挙げることができるもののは、まとまった文章量を書くことができない生徒が多かった。今後はまとまった量の文章を書くことができるよう指導していく必要がある。来年度は今年度の状況も踏まえ、各回数を4回に増やして実施する。また、1年生のスケジュールのタイトさを踏まえて来年度以降は3学期に実施していた体験作文を2年生にまわすこととした。</p> <p>2年生 昨年度同様、2学期までは全員キャリアデザインサポート講座を行い、3学期には就職者に対して課題作文を行った。昨年度の反省を踏まえ、書くことが出来ない生徒には医療系、経済系、教育系の中より1つ選んで書くことが出来るように指導した。進学者は7回実施するなかで、昨年度よりは書くことが出来るようになったもののやはり時間が足りなかった。志望理由を社会問題への関心や志望大学の特徴とつなげることが難しいと感じた。この指導をどのようにしていくかが今後の課題である。学校で行っている進路指導のスケジュールと上手に連携しながら来年度は設定した時間内に書くことが出来る方策をとっていく必要がある。</p> <p>3年生 コロナのこともあり、通常よりもかなり少ない時間での実施となった。ただし、2年生のキャリアデザインサポート講座で書いていた小論文があったのでそこまで大幅に書くことが出来なかった訳ではなかった。これまで進路カウンセリングをする中で進路を考えていた生徒たちが2年次のキャリアデザインサポート講座で進路を考えていたことがその一因である。また、手直しをしていく中で進路変更があった生徒も多くいたことが少し課題である。</p>
検定学習（漢検）	<p>検定学習実施数 1年2回、2年4回、3年2回</p> <p>検定実施</p> <p>①7月10日2・3年 ②10月23日3年 ③2月12日1・2年</p>		<p>7級23人、6級68人、5級74人、4級48人 3級15人 延べ合計228人</p> <p>昨年度と比べ、合格者数が減っている。新型コロナ感染防止対策のための一斉休校により検定学習の時間が減るなど学習時間の不足、受験機会の減少のためである。しかし全学年で過去よりも4級以上の受験者が多く、②の検定での合格率は昨年度と比べると2年34%（12ポイントアップ）1年72%（20ポイントアップ）と大きく上昇している。</p>

目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
2 ・ 生	遅刻指導の徹底	毎朝、登校時に阪急箕面駅から学校までの通学路に教員が立ち、登校指導を行う。また、ポイント指導を取り入れ、遅し算出する。	今年度の一日当たりの遅刻数を過去3年分の数と比較し、算出する。	1日当たりの平均遅刻者数 平成30年度 17.2人 令和元年度 19.9人

徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、身だしなみの徹底、マナーの向上	刻数をポイント化し、ポイント数に応じた指導を行う。		令和2年度 19.0人 令和2年度は昨年度より1日当たりの遅刻者数が少し減っている。 ・短期的目標 遅刻者数が増加しないよう、日々の指導を徹底する	
	身だしなみの徹底 学期はじめ、定期考査中に頭髪服装検査を生徒指導担当、生徒指導専従により行い、改善が必要な生徒には、学年で徹底指導を行う。	頭髪服装検査で頭髪指導数を過去3年分と比較し、年度平均数25%以下を目指す。	(平成30年度)18% (令和元年度)16% (令和2年度)14% 令和2年度は昨年度に続き目標数値25%以下を達成しており、指導数も減少している。中長期的目標としては、昨年度にもあげたとおり10%~15%を目指す。今年度はこの数値も達成している。	
	マナーの向上 毎朝、教員が通学路に立ち、あいさつ運動を行い、併せて生徒会でも定期的に行っている。 校外清掃の実施。	教員、生徒会だけではなく、一般生徒も巻き込んで常日頃からあいさつが出来るように引き継ぎ取り組む。	数値化は困難ではあるが、継続して行う。 近隣の方から「元気にあいさつしてくれる」など評価も受けている。	
	講習会の実施 令和2年度 実施講習会 ・1学期:1年スマホ・携帯電話安全講習会 2・3年インターネット講習会 ・3学期:1・2年薬物乱用防止講習会	講習内容によって、講習後の振り返りを行い、効果や理解の状況を把握している。	実施の効果が確認でき、今後も必要に応じて適宜講習を実施し、生徒の意識の涵養につとめる。	
目	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
3.生徒自身の自主活動を充実させ、自立の	学校行事の充実 体育祭、文化祭など、生徒一人ひとりが魅力を感じる取組みを行う。 クラス単位、学年単位で“自分たちで作り上げる体育祭、文化祭”という意識づけを行う。 文化祭では各店舗の売り上げの一部と金券の未返却分を日本財団の「新型コロナウイルス緊急支援募金」へ寄付した。(募金額:21450円) 本年度、体育祭は雨天のため中止となった。	文化祭、体育祭は生徒向けアンケートを毎年実施しており、それぞれ肯定感80%以上を目指にあげる	令和2年度文化祭全体を通しての満足度は79.6ポイントで、目標値の80を下回っている。しかし展示(80.3)、舞台(80.5)、模擬店(87.6)、準備への参加度(80.0)の各項目の満足度ではいずれも80ポイントを超えている。	
	部活動の活性化、加入率アップ オープンキャンパスや新入生向け部活動紹介等をより充実させ、学校HP、アスリートエリア紹介ビデオ(作成中)等を利用し、各部のアピールを行う。 令和2年度は新型コロナ感染症予防のための一斉休校で1学期が始まり、6月に入ってから部活紹介等を行った。その中でも仮入部期間を延長するなど、工夫して部活動勧誘を行った。	クラブ加入率 50%以上を目指す。	平成30年度 48% 令和元年度 57% 令和2年度 60% 年々、加入率が上がっている。また昨年度に続き目標数値50%にも達成した。	

精神を養う	生徒会活動の充実 主な活動 ○学校における生徒の生活の改善と向上を図る活動 ○文化祭運営 ○ボランティア活動など社会参加に関する活動 • あいさつ運動の実施 • オープンキャンパス運営補助 • 文化祭運営 • コンタクトレンズ空ケース回収	月曜日朝実施。 • 校内に専用 BOX を設置し、リサイクルで得た利益をワクチン購入費用等の目的で支援する団体へ次年度末に送付・寄付予定。 引き続き行う。令和 2 年度は新型コロナ感染症予防のため、箕面祭りが中止され生徒会ボランティア参加ができなかった。
-------	--	---

令和 2 年 3 月 15 日

普通科総合選択制アンケートについて

第 3 学年では学年末に QR コードを読み取り、142 名のアンケートを実施し、普通科総合選択制についての現状を調査した。

それぞれの授業（専科・基礎教養）について点数化し、選択授業全体の「満足度」を計算した。

【方法】	①たいへん効果があった = 100 点
	②それなりに効果があった = 60 点
	③あまり効果がなかった = 30 点
	④全然効果がなかった = 0 点
	⑤あまり覚えていない = 得点に含めない

* それぞれの回答を点数化 → 平均 = 「満足度」（100 点満点）とした。

(1) 問 1. 1 年次の体験実習講座の「満足度」の平均 = 60

〈内訳〉

問 1%	①	16.9	②	31	③	18.3	④	2.1	⑤	45
------	---	------	---	----	---	------	---	-----	---	----

効果があったと回答した生徒が、50% を少しわり、逆に、「⑤あまり覚えていない」という生徒が 45% と例年より多い結果となった。体験実習を経て 2 年次に選択できる科目が少ないというのも実情であるのではないか？理美容・車関係など

(2) 問 2. 資格検定講座の「満足度」の平均 = 54.7

〈内訳〉

問 2%	①	16.9	②	52.8	③	20.4	④	9.9
------	---	------	---	------	---	------	---	-----

「②それなりに取り組んだ」が半数を占めている。しかし「③あまり意欲的に取り組めなかった」が、「①たいへん意欲的に取り組んだ」を上回っているので、もっと意欲的に取り組めるような仕掛けが必要である。

(3) 問3. 選択の基準にみられる「満足度」の平均

ここでは、「①進路」を基準として選択した者について「満足度」が高い傾向がみられた。また、例年と違う所は「⑧先生の勧め」の満足度が10ほど上昇していることからエリアや担任の先生が良く生徒と相談して決めていることがうかがえる。

		専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
進路	自分の進路に必要な学習内容	70.9	74.3	71.8	73.6	72.8
興味・関心	自分が興味・関心のある学習内容	69.9	71.2	69.4	71.6	70.6
エリア	エリア	71.2	76	74.5	73.6	74
難易度	難易度が自分に合っている	71.9	70.9	73.5	69.7	71.3
シラバス	シラバス(学習内容の紹介)	74.1	70.4	75.4	69.4	72
考査の有無	定期考査の有無					
友人と同じ	友人と同じ授業を取りたい	64.5	59.7	63.9	60.1	61.8
先生の勧め	先生に勧められた	72	68.4	71.9	68.5	70
楽したい	なるべく楽したい	62.5	66.3	65.3	64.2	64.7
その他	介護の仕事	57.8	48.3	50	54.2	52.4
	親	60	60	60	60	60
	何となく	64.4	70	73.3	63.3	67.6
	特になし	60	60	60	60	60

(4) 問4. 専科・基礎教養の「満足度」について

A. それぞれの「満足度」の平均 (前年) (前前年)

- | | | | |
|---------------------|--------|--------|--------|
| ① 全体の選択授業の「満足度」の平均 | = 69.2 | (70.7) | (70.4) |
| ② 専科の「満足度」の平均 | = 68.1 | (69.2) | (68.9) |
| 基礎教養の「満足度」の平均 | = 70.0 | (71.8) | (71.6) |
| ③ 2年次の選択授業の「満足度」の平均 | = 68.5 | (69.3) | (69.9) |
| 3年次の選択授業の「満足度」の平均 | = 69.7 | (71.8) | (71.0) |

B. 専科・基礎教養の内訳

専科・基礎教養の内訳	A(進路)	B(興味・関心)	C(難易度)
専科Ⅰ	65.1	66.3	68.2
専科Ⅱ	68.7	68	71.8
専科Ⅲ	66.1	68.5	69.8
専科平均	66.6	67.6	70
基礎Ⅰ	65.1	64.2	67.7
基礎Ⅱ	74	71.7	74.5
基礎Ⅲ	66.1	68.5	69.8
基礎Ⅳ	75.1	74	75.6
基礎平均	69.6	68.5	72

例年通り専科より基礎教養の満足度が高い。しかし興味・関心における満足度は例年よりも3ポイントほど低めで、興味や関心はあるが、選択することは出来ないという事もあるのではないかと考えられる。

(5) 問5. 進路を決めた時期にみられる「満足度」

	専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
1年の前半	75.6	78.4	76.4	77.8	77.2
1年の後半	72.7	78.3	77.2	74.8	75.9
2年の前半	69.9	72.8	68.7	73.7	71.5
2年の後半	65.8	69.7	67.5	68.4	68
3年の前半	71.7	71.7	71.5	71.9	71.7
3年の後半	51.1	46.3	50	47.1	48.3
まだ考えていない	34.4	30	25.6	36.7	31.9

<内訳>

問5%	①	9.9	②	7.0	③	14.1	④	31.7	⑤	29.6	⑥	5.6	⑦	0.0
-----	---	-----	---	-----	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----

今年度は④⑤の合計70%が2年後半から3年の前半にかけて進路を考えていることから3年前半では満足度が一段階あがっている。例年通り1年次に進路が決まっている者はやはり満足度は高い傾向にある。「⑦まだ」を選んでいる生徒は、極端に満足度を下げていることから、自分の進路が明確に決められていない生徒は、当然満足した選択が出来ていない。したがって、自分の進路を早い段階で決め、自分の進路に即した選択をすれば、授業への「満足度」も上がると考えられる。

(6) 問6. 進路とエリアの合致にみられる「満足度」

A. 選択科目別の「満足度」

	専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
ちょうど合っていた	79.4	82.7	81.1	81.5	81.3
それなりに合っていた	68.4	70.6	68.5	70.5	69.6
あまり合っていなかった	57.8	56.1	56.4	57.1	56.8
全然合っていなかった	20	33.3	21.1	32.5	27.6
わからない	47.7	47.5	47.3	47.7	47.6

B. エリア別でみた合致の割合

%	アスリート	アーバン	キャリアアップ	キンダーアンドウエルフェア
ちょうど合っていた	44.7	30.2	28.6	70
それなりに合っていた	34	37.2	45.2	20
あまり合っていなかった	12.8	14	4.8	0
全然合っていなかった	0	0	2.4	0
わからない	8.5	18.6	19	10

例年通りの考察通りだが今年度は「全然合っていなかった」という選択をするものがほとんどなく、B表でみるとアスリートやキンダーアンドウェルフェアの割合は例年通り高かったがアドバンスやキャリアアップの「合っていた」という回答が増加しているのはそれぞれのエリアでの取り組みや工夫、努力されていることがうかがえる。

SNSによるアンケートが今年度初めてという事もあり、「わからない」という回答をしている生徒が例年より多いがエリアに関しても進路の決定の早期化の手段をもう少し検討していく必要がある。

(7) 問7. 「こんな授業があればよかったですのに」

ボーリング 海外の色々な音楽 SDGSについて詳しい授業 道徳
英語の音楽を聞く授業 楽しいスポーツをやりたかった 調理実習 など

どの項目も複数名の回答ではなく、個人的な回答であったが、それが必要としている講座のように思える。個々の進路実現のためにも、細やかな指導が必要である。

(8) まとめ

自分の進路について、主体的に取り組めている生徒の満足度が高くなっている。一方、自分の進路とエリアの結びつけて考えられていない生徒が、授業選択で十分な満足を得られていないことは例年通りなので、問6の考察でもあるように1年次に進路決定の手段、例えば進路個人面談の時間の設定などが必要かもしれない。実際入学したばかりの生徒に進路の話をしてもピンとこないかもしれないが目標が見つかれば選択授業がより生きてくる可能性が高いと考えられる。

進路目標を早い段階で意識付けし、前向きに取り組めるように個々に応じた指導が、今後も必要になってくる。選択授業やエリア別学習が、有効な学びとなるように、生徒と教員が努めていかなければならぬと思われる。